

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒108-8532
 住 所 東京都港区芝浦2丁目5番1号
 氏 名 あすか製薬株式会社 印
 代表取締役社長 山口 隆
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

| | | | |
|---------------------|--|-------|--|
| 事業者の氏名 又は名称 | あすか製薬株式会社 | | |
| 主たる事務所又は 事業所の所在地 | 神奈川県川崎市高津区下作延5丁目36番1号 | | |
| 該当する事業者 の要件 | <input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者 | | |
| | <input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者) | | |
| 主たる事業 の業種 | 大分類 | E | 製造業 |
| | 中分類 | 16 | 化学工業 |
| 主たる事業 の内容 | 医薬品製造 | | |
| 事業者の規模 | <input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量 | 1,899 | k l |
| | <input type="checkbox"/> 自動車の台数 | | 台 |
| | <input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量 | | t -CO ₂ |
| 連絡先 | 担当部署 | 担当部署名 | 広報部 |
| | | 所在地 | 東京都港区芝浦2丁目5番1号 |
| | 電話番号 | | 03-5484-8366 |
| | FAX番号 | | 03-5484-8351 |
| | メールアドレス | | webmaster@aska-pharma.co.jp |
| ※受付欄 | | ※特記事項 | ※事業者番号 |

(第2面)

| 計 画 期 間 | 平成22年度 ~ 平成24年度 |
|------------------------------------|---|
| 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針 | 別添 指針様式第1号及び第3号のとおり |
| 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制 | 別添 指針様式第1号及び第3号のとおり |
| 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量 | 別添 指針様式第1号及び第3号のとおり |
| 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 蒸気配管の断熱工事による放熱損失防止対策の実施 2. 定期点検の実施 3. ヒートポンプの採用 4. 空気調和設備の新設・更新時の措置 5. トップランナー変圧器の採用 6. 高効率照明器具の採用 7. 給湯設備のヒートポンプ化 <p>詳細は、指針様式第1号（第4、5面）のとおり</p> |
| 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項 | 該当する事項なし |
| その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップ推進協会への協力 ・産業廃棄物の削減及び、資源化対策 ・グリーン購入の推進 <p>詳細は、指針様式第1号（第6面）のとおり</p> |
| 備 考 | <p>当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています。</p> <p>http://www.aska-pharma.co.jp/company/environment.html</p> |

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

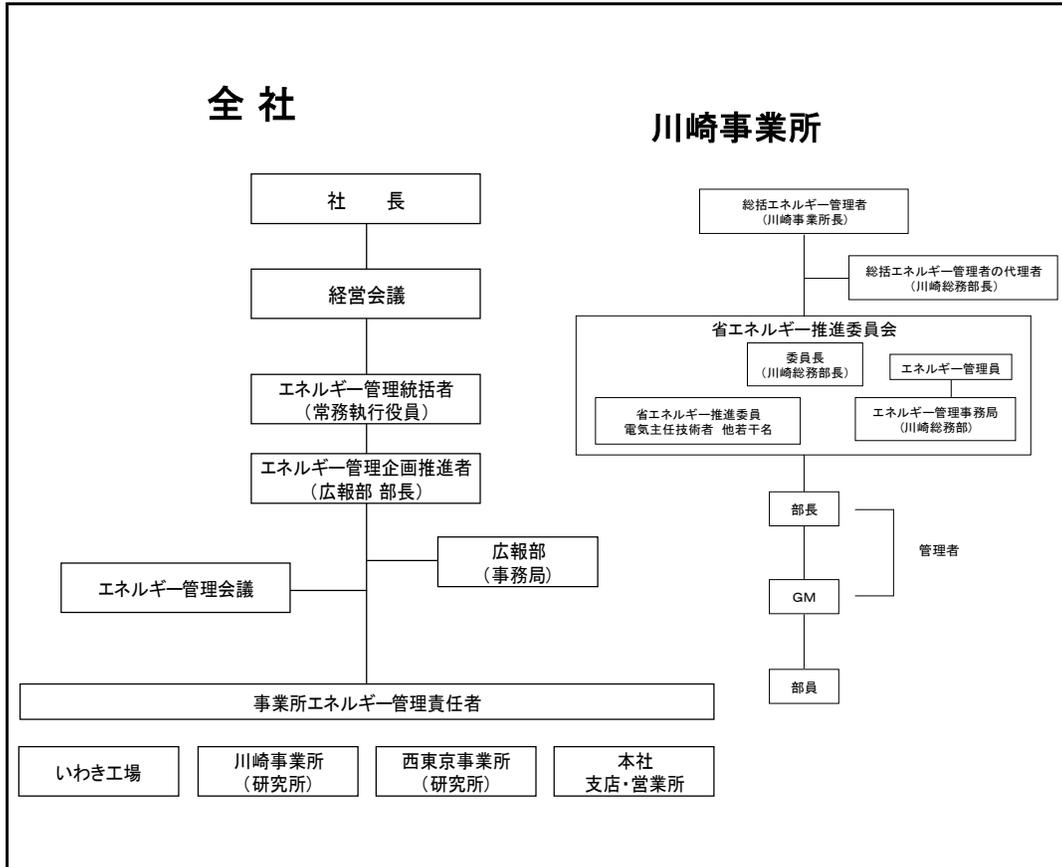
1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

あすか製薬は「先端の創薬を通じて人々の健康と明白の医療に貢献する」との経営理念のもと、社会に貢献し信頼される会社として、環境問題への取り組みを当然の使命と受け止め、すべての事業活動を対象に環境の保護と環境への負荷低減に継続的に取り組みます。さらに当社は、環境配慮の考え方を示す環境基本理念を制定し、具体的な取り組みの指針として環境基本方針を定めております。

1. 環境マネジメント体制を確立する。
2. 環境法規制および当社が同意したその他要求事項を遵守する。
3. 研究・開発、生産、営業など事業活動の環境負荷の継続的低減に努める。
4. 環境に配慮した施設計画、技術・製品開発を行う。
5. 企業市民として環境コミュニケーションの向上に努める。
6. 従業員への環境教育、啓発に努める。

特に川崎事業所では、地球温暖化防止に向けたCO₂排出量削減の取り組みとして、ボイラの燃料転換を検討中ですが、身近に出来ることとして、こまめな消灯、クールビズ・ウォームビズの実施、節水やエコドライブ励行や製造現場での省エネのための小さな改善・工夫の積み重ねにより、環境負荷低減に努めます。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

| 基準年度 | 平成 21 年度 | 目標年度 | 平成 24 年度 |
|-------|--|-------|-----------------------------|
| 基準排出量 | (実) 3,810 (調) 3,416 t-CO ₂ | 目標排出量 | (実) 3,697 t-CO ₂ |
| 削減率 | (実) 3.0 % | 削減量 | (実) 113 t-CO ₂ |

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

| 原単位の活動量 | 空調延床面積 | 単 位 | t-CO ₂ /千m ² |
|-----------------------------------|--------|--------|------------------------------------|
| 基準年度の値 | 270.8 | 目標年度の値 | 262.7 |
| 削減率 | 3.0 % | | |
| 延床面積、生産数量 以外の原単位を使用 した場合の理由 | | | |

ウ 目標設定に関する考え方

| |
|--|
| <p>平成21年度の全社環境管理会議で、あすか製薬の中期環境目標が設定され、CO₂総排出量を平成24年度までに3%以上削減することを前提に目標を設定した。</p> <p>その目標達成に向けて、3年間の計画期間中に、トッランナー変圧器の採用、省エネ型スチームトラップへの更新、高効率照明器具の採用を実施する。</p> |
|--|

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

| |
|--|
| <p>全社で年1%以上のエネルギー消費原単位の低減、および事業所単位でCO₂排出量単位の削減に取り組み、全社のCO₂排出量原単位の年1%以上の削減を目指すことが決議された。</p> |
|--|

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

| | |
|--|---|
| <p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第1号、第2号、第4号該当者等)</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 蒸気配管の断熱工事による放熱損失防止対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ● 雨水浸入防止対策と保温劣化箇所を順次補修する。 ● 省エネ型スチームトラップを3年間で30台を更新してドレン排出量を削減する。 2. 定期点検の実施 <ul style="list-style-type: none"> ● ボイラーに設置した廃熱回収用熱交換器の性能維持のため定期点検を実施する。 3. ヒートポンプの採用 <ul style="list-style-type: none"> ● 設備の新設・更新に当たっては、高効率ヒートポンプを採用して、エネルギーの効率的使用を図る。 4. 空気調和設備室外機の設置場所の考慮 <ul style="list-style-type: none"> ● 極力直射日光を避け、通風の良い場所を選定する。 5. トップランナー変圧器の採用 <ul style="list-style-type: none"> ● 変圧器にトップランナーを採用、3年間で2台を更新する。 6. 高効率照明器具の採用 <ul style="list-style-type: none"> ● 蛍光灯器具の安定器の高効率化としてインバーター化 ● 高反射板付きHf器具に更新し、3年間で200台を更新する。 ● 清掃が容易な器具を選定する。 ● 総合的照明効率を考慮した器具を選定する。 7. 給湯設備のヒートポンプ化 <ul style="list-style-type: none"> ● 効率的使用を考慮して、局所式の採用を検討し設置する。 ● ヒートポンプシステムや潜熱回収方式の採用を検討し3年間で2施設に設置する。 |
| <p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第3号該当者等)</p> | |

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

現時点で利用計画は無いが、将来的には導入しなければならないと考えている。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

| 設備等の種類 | 概要(規模、導入場所、性能等) | 導入年度 | 備考 |
|--------|-----------------|------|----|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

| 種類 | 概要(規模、場所等) | 保有年度 | 備考 |
|----|------------|------|----|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

- ・小型ボイラ高効率化
 - ①台数制御 ②ローテーション運転、インバーター式
- ・蒸気配管類の放熱防止対策(継続実施中)
 - ①省エネカバー・保温取付け ②保温ラッキング補修・雨水浸入防止シーリング
 - ③漏れの早期修理 ④不要配管撤去
- ・省エネ蒸気トラップ採用112台(継続実施中)
- ・蒸気ドレン回収(ボイラー室内)
- ・ボイラ連続フローの廃熱回収
- ・高効率蛍光灯照明器具採用(継続実施中)
 - ①安定器のインバーター化 ②Hf式照明器具 ③高効率反射板の採用
- ・非常誘導灯のLED化及び適正配置(継続実施中)
- ・白熱ランプ型壁付けブラケットの蛍光ランプ化
- ・机上スポット照明(ズライト)の蛍光ランプ化
- ・エアコン省エネインバーター式導入(継続実施中)
- ・空調機のインバーター化(継続実施中)
- ・空調用チラーユニットの高効率化、台数制御、季節毎に温度設定変更(継続実施中)
- ・空調用排気の廃熱回収
- ・変圧器(トプランナー)の更新(継続実施中)

6 他者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

該当する事項なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

- エコキャップ推進協会へ協力します。(ペットボトルのキャップの再資源化に協力)
- 産業廃棄物の削減や資源を効率的に利用するために、廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動を基調とした循環型社会を志向する取り組みを積極的に進めます。また、中期環境目標では、最終処分率(最終処分量/排出量)を1%未満とするゼロエミッションを推進します。
- 紙リサイクル用回収ボックス「エコペーパーソート」を導入・活用を進めます。
- グリーン購入の推進としては、
 - i) 物品を購入する際に必要性を十分考え、できる限り数量を削減する。
 - ii) 購入物品は環境配慮品を、環境負荷低減に努めている事業者より優先的に購入する。

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

| | | |
|-----|-------|-------------------|
| (実) | 3,810 | t-CO ₂ |
| (調) | 3,416 | |

イ 第3号該当者等

| | | |
|-----|--|-------------------|
| (実) | | t-CO ₂ |
| (調) | | |

(2) 事業所等单位 (第1号、第2号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

| 事業所の名称 | 事業所の所在地 | 日本標準産業分類 細分類番号 | 事業所に係る 事業の名称 | 温室効果ガス の排出の量 |
|--------|----------------|-------------------|-----------------|-------------------------|
| 川崎事業所 | 高津区下作延5丁目36番1号 | 1651 | 医薬品原薬製造業 | 3,810 t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |
| | | | | t-CO ₂ |

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

| 事業所の名称 | 事業所の所在地 | 日本標準産業分類 細分類番号 | 事業所に係る 事業の名称 | 温室効果ガス の排出の量 |
|--------|---------|-------------------|-----------------|-------------------|
| | | | | t-CO ₂ |

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

| エネルギー使用量の規模 | 事業所数 |
|--------------|------|
| 400～500kl 未満 | |
| 300～400kl 未満 | |
| 200～300kl 未満 | |
| 100～200kl 未満 | |
| 100kl 未満 | |

(3) 事業所等单位 (第4号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

| 事業所の名称 | 事業所の所在地 | 日本標準産業分類 細分類番号 | 事業所に係る 事業の名称 | 温室効果ガス の排出の量 |
|--------|---------|-------------------|-----------------|-------------------|
| | | | | t-CO ₂ |

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

| | |
|------|--|
| 事業所数 | |
|------|--|